

## まちづくり懇談会議事録

日 時：平成 30 年 11 月 10 日（土） 18：29～20：29

場 所：湯地公民館

出席者：11 人

1. 開会
2. 町長挨拶  
※資料確認
3. 説明事項  
(1) 栗山町第 6 次総合計画後期実施計画策定について（資料①・②）  
※質疑応答
4. 懇談  
(1) 栗山町が直面する主な課題について（資料③）  
※自由懇談
5. 閉会

### 《懇談会内容》

質疑：人口減少対策としては企業誘致が不可欠であると思うが、現在の企業誘致の状況は。

町長：旭台の工業団地では、33 区画中 28 区画が埋まっている状況で、昨年、第 4 工業団地として 7 区画を造成したところ。また、昨年は私と栗山商工会議所会頭とで名古屋に行き、北海道に興味のある企業が集まるイベントに参加してきた。今後も商工会議所とも連携してやっていきたい。また、人口減対策としては、現在栗山町で働いている人 6,500 人のうち、約 25% の 1,500 人ほどが町外から通っている（そのうちの半分は 20～40 歳の若い世代）。UI ターン支援事業など、栗山に住んでもらえるような事業に取り組んでいきたい。

意見：栗山町の魅力を、町民がしっかりと理解できているのか。外へ栗山の魅力を発信するには、町民が栗山の素晴らしさをあらためて再認識することも必要であると思う。

町長：情報発信は弱いと認識している。町の各分野の魅力を一つのパッケージとして発信する仕組みづくりに取り組んでいきたい。

意見：元気な高齢者が働くことができる環境づくりとして、シルバー人材センターを作るなど町が取り組むべき。（農業も遊休地が増えているので、労働力の確保としても必要）

町長：シルバー人材センターは、取り組みたいという会社が出てくれば町としてその会社を支援する。町内では日東総業とクオスがシルバー人材を雇用しているようだが、農業分野にはまだ取り組んでいない。農業分野の労働力の確保は、農業振興公社と議論、検討していきたい。

意見：栗山高校は三笠高校のように何か特色のある学校にしてはどうか。（例えば、在学中に野菜ソムリエの免許が取得できたり、地域コーディネーターを育成したりして地域ですぐに活躍できる人材育成をするなど）

町長：栗山高校は、後ほどの懇談でお話しさせていただく。

質疑：技能実習制度で、管理団体である J A を町が支援できないのか？

町長：技能実習制度は国際貢献制度であるため、労働力不足に活用するのは内容になじまないと思う。入国管理法の方で考える方が良い。

質疑：日赤の問題で、近隣である長沼の町立病院の経営状態はどうなのか。

福祉総括：長沼は町立であるため、なおさら町の負担は大きい。医師の確保も町立の場合はさらに厳しい状況だと思う。

質疑：日赤建て替えなどで、町負担分は起債を充てるのか。

町長：起債を充てて町の実質負担が12億円～13億円という状況。専門家からは近隣町との広域でという話も出ているが、場所をどこにするのかなど、現実的にはなかなか難しい。

意見：個人の意見としては、病院も含め、学校もスキー場も全て栗山町単独でというのは難しいと思うし、必ずしも栗山町に無くてはやっていけないとも思わない。一つの施設で見るとどこに建てるかというのは難しいと思うが、総合的に〇〇施設は栗山町、××施設は長沼町などできれば良いと思う。

町長：連携できればと思う。

質疑：栗山高校の進学率は。

教育長：6割程度が進学。栗山高校は伝統のある高校なので、推薦枠も他校に比べて多い。

意見：栗山高校も、進学校か専門校かのどちらかの道を選ばないといけないのではないかと。私は、専門校として進めていくことが良いと思う。

教育長：道立校であるので勝手なことはできないが、地元のニーズや意見を反映した中で北海道と協議していきたい。

質疑：栗山高校の運営など、今までに要望したことは。

教育長：コミュニティースクールの話し合いの中で議論の場はある。